

1面からのつぎ

本県 奥村智子(大分県) 小野壽枝、磯邊佑一郎、三浦勝久(宮崎県) 渡部昂一、梶原順子、谷山基晴(沖縄県) 岸本直也、佐久川長儀

社会福祉

(北海道) 合田幸子、金田かつ子(青森県) 田村清司(岩手県) 千葉勝美、菊地恵美子、精神保健福祉ボランティアあおぞら会(宮城県) 出雲榮子、加茂昭六郎、山崎孜、伊藤みどり、高橋嘉彦、佐藤良弘(福島県) 林美枝子(茨城県) 安藤泰正(栃木県) 矢田部一郎、藤平末子、川田奈美、横松盛人、寺内幸夫、たかろば会(群馬県) 茂木浅子、猿木尚子(千葉県) 草笛&リーフル「ハッピー・はっぱ」、脳トレ健康クラブ、脳の健康教室・花見川OPENちば、ふなばし朗読の会まつむし(東京都) 永野咲子、横谷恭子、赤沼雅子、中込和子、猪股百合子、まさるの会(静岡県) 高町第3日曜市場(愛知県) 森田幸治、椎葉千代子、仲井須美子(滋賀県) ガールスカウト滋

賀県第二団(京都府) 城陽手話サークルめだか(和歌山県) 有田市朗読ボランティアアささやき(岡山県) 瀧 正敏、高梁地区更生保護女性会(徳島県) 小野木和代、村岡尚美(福岡県) 日向ひよつとこ踊り博多愛好会、吉田砂織(熊本県) 村松はつみ、牧勝美(大分県) 萱嶋任侠(鹿児島県) 徳丸真子、棚木原子ヨ子

自然と文化財愛護

(北海道) 一般財団法人小清水自然と語る会、加藤利助(岩手県) 南沢神楽、エイサーグループみちのく祭り太鼓、小野寺安(宮城県) 佐々木徳朗、兵庫淑子、衣川善仁(栃木県) 森島邦昭(群馬県) 今泉茂、中里明康、中嶋努(千葉県) 我孫子野鳥を守る会、ふなばしネイチャーゲームの会(神奈川県) 小林静子、鈴木公子(新潟県) 高橋英夫、金子正彰、石田 良(静岡県) 駒門風穴保存会(愛知県) 兵藤寛司(佐賀県) 唐房祇園山囃子保存会、唐房千越し祝い唄保存会、大野大黒舞保存会(沖縄県) 上門加代子、屋比久節子、伊禮ユキ子

受賞者の声 喜びの声

●●金 章●●

善行金章を受賞して

愛知県あま市 永津 勝彦



この度、栄えある善行金章を受賞し身に余る光栄でございます。平成十八年秋季善行表彰を大阪支部のご推薦により受賞し、伝達を受けるため家内とともに大阪府支部の総会に出席した際、岩井本部常務

理事より愛知県において善行会の支部設立ができないかとお言葉をお聞きいただき、早速本部より過去五年以内の表彰者及び本部会員の名簿をいただき皆様にご連絡し、お集まりいただきました。ご出席いただいた方々に愛知県支部設立をお計らいしたところ、ご同意をいただき支部設立の準備にかかりました。第一回の総会を平成二十年五月二十五日開催以来十五年、平成二十三年豊橋、令和三年名古屋に支部が設立され、愛知県支部は現在名古屋・豊橋を除いた地域で活躍されている方の支部となりました。

●●金 章●● 奉仕と共に 群馬県桐生市 吉田 節子



この度は栄誉ある特別金章を賜りまして、心より御礼申し上げますと共に大変うれしく光栄に存じます。種々のボランティア活動に六十年余り席を置かせていただいた中では、特にボイスカウト活動は人生三分の二期を多くの子もたちと共に歩み楽しく活動を通じてまいりました。子どもたちと寝食を共に過ごす中「生きること」「生きていくこと」の「根源」を体験と奉仕を通して新たな心で深く学ばせていた

だいたとも思っておりません。ボイスカウト活動は学校教育とは異なり一人一人の子どもの徳質を踏まえて「心と心」「体と心」を本音で「ぶつつけ合い」親と共に成長を見守るといって深い関係を保ち現在に至っております。「生みの親は家に居ます」「この方は僕の育ての親です」と私を紹介してくれたスカウトが今では桐生市議会議長という要職に就き桐生市を守ってくれております。今や六十才を迎える人達もおりますが、どの子どもも「わが子」と思っております。幸せな活動を行ってまいりました。善行会に入会するに当たっては、今までの体験をふまえ「善行会と共に活動を行ってみませんか」というお誘いを受け早や三十五年の月日が流れ、今だにこの活動を続けられたい事は、神への感謝と共に長き人生を肩を同じにして歩み続けて下さいました多くの盟友のささえがあったればこそと思ひ、ただ

●●銀 章●●

ありがとうの言葉

東京都小平市 瓦井千恵子



この度、特別善行銀章を賜り心から御礼申し上げます。私は長年駄菓子屋を営

ふる里自慢

石川県金沢支部

金沢と兼六園

東京駅より北陸新幹線に乗り約二時間半で金沢駅に降り立つことができ。ほぼ本州の真ん中に位置し平成八年より中核都市になっております。北陸の中心都市金沢は、江戸時代、加賀藩前田家のお膝元として、江

戸・大阪・京都に次いで栄えた城下町です。戦災や自然災害を免れた金沢は、加賀百万石の風情や文化的景観が今でも残っています。また、工芸品や和菓子など伝統文化が大切に受け継がれている職人の街でもあります。金沢の地名の由来は、昔 山芋を掘って売っていた藤五郎と言う青年がおり、山で芋を掘っていると、芋のひげに砂金がついていました。その砂金を洗った泉が「金洗沢(かなあらざわ)」とよばれ、それが金沢の地名

になったと言われています。現在の兼六園の「金城霊沢(きんじょうれいたく)」が、その泉だと言うことです。気候としては、「弁当忘れても傘忘れるな」と言われるくらい雨の多い地域です。春や夏は好天の日が多い反面、冬は曇りや雨の日が多く冬雷も鳴り、積雪もあります。たまに車も動かぬ程の大雪になることがあります。また、日本の三名園のひとつに数えられている兼六園の敷地は約十一・四万㎡と広大で、江戸時代の代表的

な林泉廻遊式大名庭園の特徴をそのままに残しています。兼六園の名は造園当初からあったものではなく、十二代藩主前田斉広(なりひろ)の頃に名付けられたもので、中国・宋の書物「洛陽名園記」に起因すると言われています。「広々としたさま(宏大)を表そう」とすると静寂や奥深さ(幽邃)に欠ける、人工的なもの(人力)が勝れば古びた趣(蒼古)が乏しくなる、水の流れ(水泉)を多くすると遠くの眺め(眺望)が取れな

い。庭園でこの六勝を備えることはとても難しく洛陽の湖園のみがすべてを兼ね備えている」と書かれており、その洛陽の湖園に引けを取らない、兼ね備えることが難しい六つの景観を備えている名園として「兼六園」と名付けられたと言われています。現在は「文化財指定庭園 特別名勝 兼六園」となっております。金沢を訪れたら是非一度、足を運んでいただいで、園内の六勝を探して見てはいかがでしょうか。

訃報



去る十月七日、日本善行会参与の須郷勝雄氏(九十九歳)が逝去されました。

須郷氏は、昭和五十七年に青森支部を設立し、平成二十七年まで支部長として、会員増強と支部運営に尽力しました。平成十四年から日本善行会理事、平成十六年から参与として、日本善行会の発展に多大の貢献をされました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。